

## 校長ニューズレター(第31号・6月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



### 飛べ飛べとんび

共同研究者をまねいて講師招聘研修会を開催しました。3年生が「とんび」の歌の練習をしました。歌詞はつぎのとおりです。

(一)

飛べ飛べとんび 空高く  
鳴け鳴けとんび 青空に  
ピンヨロー ピンヨロー  
ピンヨロー ピンヨロー  
楽しげに 輪をかいて

(二)

飛ぶ飛ぶとんび 空高く  
鳴く鳴くとんび 青空に  
ピンヨロー ピンヨロー  
ピンヨロー ピンヨロー  
楽しげに 輪をかいて

一通り子どもたちが歌ったあと、狩野先生(共同研究者)が登場。子どもたちと一緒に先生は歌いました。とくに「ピンヨロー ピンヨロー」のところを楽譜どおりに音程を変えて歌わせました。

つぎに歌詞の内容に迫っていきました。子どもたちに発問です。

狩野:「『飛べ飛べとんび』と言っているが、誰が誰に『飛べ』と言っているのですか?」

しばらくの沈黙のあと、

A男:「お父さんとんびが、ひな鳥に言っていると思います」。

子どもからこのような考えが出てくるとは思っていなかった。なんと素晴らしい着想なのでしょう。

この場面で、「一番で『飛べ飛べ』なのに、なぜ二番で『飛ぶ飛ぶ』なのか?」という発問もできたはずですが。この発問では、子どもは答えにくい。「なぜ」「どうして」の発問は、とても答えにくいのです。誰が誰に言ってい

るのなど具体的に問うと、子どもの頭は思わず回転し始めます。これこそ子どもに考えさせる発問なのです。

さて、この子の解釈では、この歌はこうなります。

「一番で、空高く飛んでいるお父さん鳥が、幼鳥に空高く飛んでごらんと、励ましている。二番で、空高く青空で鳴いているお父さん鳥が、幼鳥にもっともっと鳴いてごらんと励ましている・・・」

この解釈であれば、

「ピンヨロー ピンヨロー」のところでは、最初の「ピンヨロー」はお父さんとんびが空の高いところで鳴いている、あとの「ピンヨロー」は幼鳥が空の低いところで鳴いていることになる。

この「とんび」という歌は、親子の会話であって親鳥が子どもの鳥を励ましている情景を浮かばせるものである。A男さんの答えは、このようなイメージを私に抱かせてくれました。(もちろん、他の解釈もあってもいいのです。)

上記のように研究者とA男さんのやり取りがあっただけで、子どもたち全員の歌の内容が一気に深まってきました。子どもたちは明確なイメージをもって歌い出したのです。

子どもたちが歌を歌うとき、ただ何となく歌っていてもダメです。その歌詞の内容を、教師と子ども、子どもと子ども、歌詞と子どもとの対話がしっかりとおこなわれてこそ、子どもたちの歌唱は昇華され、表現力が育っていきます。

簡単に「子どもから学んだ」とは言わないようにしていますが、今回はA男さんから学びました。

さて、今回の授業を参観して、子育てとは、教育とは、自らが見本になって、子どもたちにもっと高く「飛べ飛べ」と励ましてあげることなのかと思いました。